

◆活動団体

団体名：風波のクロスロードパートナーシップ

連絡先：一般財団法人下関21世紀協会（TEL 083-223-2001）

◆活動内容

古代から現在まで日本の歴史の舞台となった下関。

大陸の玄関口や北前船で栄えた港町、落ち着いた町並みの城下町長府、
維新発祥の地など自然の風と歴史の波が寄せる本州最西端の道。

その周辺各地域のまちづくり諸団体の有機的ネットワークによって更なる地域の
魅力の発掘と活用を図り、「訪れる人」と「迎える地域」の一体感を創出しなが
ら、交流人口の増加、地域の活性化及び観光振興を推進します。

対象エリアで開催される様々な事業において、パートナーシップを構成する諸団
体が連携しながら参画しています。

・下関花いっぱい計画

下関駅から唐戸までの国道9号線沿いの「海峡花通り」には約130ヵ所の花壇が
あります。ボランティアの花壇管理者が花苗の植付、水やり、草抜きなどの管理
をして、花苗を育て、街を綺麗にする活動です。

国土交通省・下関市と三者でボランティア・ロード協定を締結し、毎年2回花苗
の植付を実施しています。令和5年度は、6月4日(日)と12月3日(日)に実施
しました。当日は約80の団体・企業及び約500人の市民が約20,000株
の花苗を花壇に植付けました。



R5年度

・第38回維新・海峡ウォーク

維新・海峡ウォークは2つのルートがあります。

下関維新ルートは、高杉晋作の墓所で国の史跡に指定されている「東行庵」を
出発して、王喜、清末、王司、長府、功山寺、みもすそ川、唐戸の各関所を通
ってシーモール前の日本セレモニーウォークにゴールします。

門司港レトロコースは、みもすそ川の関所から関門人道トンネルを通して和布
刈の関所から門司港にゴールします。

令和5年度は4月9日(日)開催しました。

約8,000人の参加者がありました。

・アジアポートフェスティバル in Kanmon 2023

第39回関門海峡花火大会

開催日 令和5年8月13日(日)

花火打上 午後7時50分～午後8時20分

関門海峡花火大会は、今や日本で有数の花火大会のひとつに数えられるようになりました。帰郷した仲間たちと共に、誇りとする海峡の価値を見つめ、次代に想いを継承するという意思のもと、昭和60年、財団法人下関21世紀協会によって始められました。昭和63年からは北九州市の門司区側からも花火が打ち上げられるようになり、両市合同での開催は令和5年で36回目を迎えます。あるかぼーと開発の始動に伴い、メイン会場を岬之町(はなのちょう)埠頭に移して開催しました。

会場 岬之町埠頭・あるかぼーと会場、海峡ゆめタワー前会場
カモンワーフ会場・唐戸市場前会場

観客動員数 下関側35万人、門司側35万人、合計70万人

花火の内容(下関側)

打上花火、水中花火、尺玉連発、1尺5寸玉、フェニックス 等

当日会場の様子



関門海峡花火名物

水中花火

復興祈願花火 フェニックス



・第17回ツール・ド・しものせき2024

開催日 令和5年6月16日(日)

ツール・ド・しものせきは、下関市が推進する自転車にやさしいまちづくりを目指す「サイクルタウン下関構想」の一環として、関係団体等と下関市で実行委員会を組織し自転車の利用促進や環境整備、観光・地域・スポーツ振興といった様々な目的を持ちながら、下関の魅力を自転車に乗って体感してもらう自転車普及イベントです。下関の魅力を堪能できる約125Kmのコースです。

令和6年は、初の試みとなる約80Kmの「ミドルコース」を設定し、2コースで開催する予定です。

125Km コース

下関北運動公園、国道191号、室津ヨットハーバー、土井ヶ浜弥生パーク、豊田農業公園みのりの丘、菊川総合支所、深坂自然の森、下関北運動公園

参加者 約900名

